

1 4) 食事の種類

「普通食」は 204 人 (79.1%)、「きざみ食」は 16 人 (6.2%)、「経口栄養(流動食)」は 5 人 (1.9%)、「経管栄養」は 8 人 (3.1%)、「IVH (中心静脈栄養)」は 25 人 (9.7%) であった。「経口栄養(流動食)」、「経管栄養」の割合は、比較的低い。

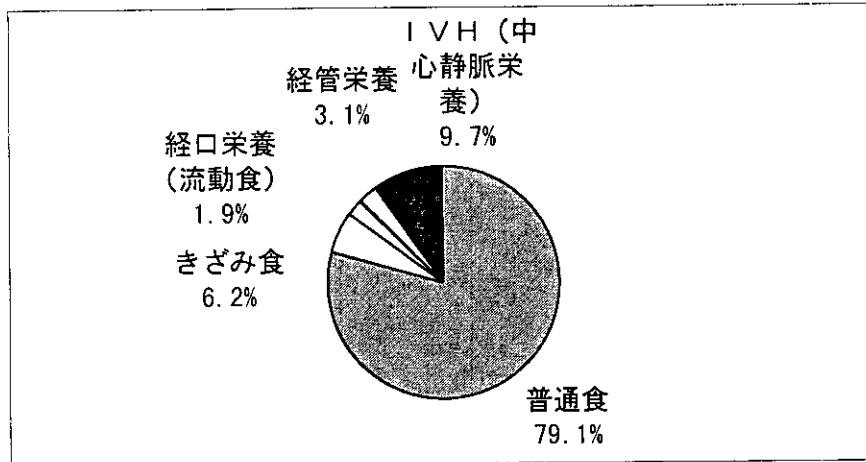


図 14 食事の種類など

1 5) 食事摂取

「自立」は 220 人 (85.6%)、「見守りが必要」は 8 人 (3.1%)、「一部介助が必要」は 13 人 (5.1%)、「全介助が必要」は 16 人 (6.2%) であった。

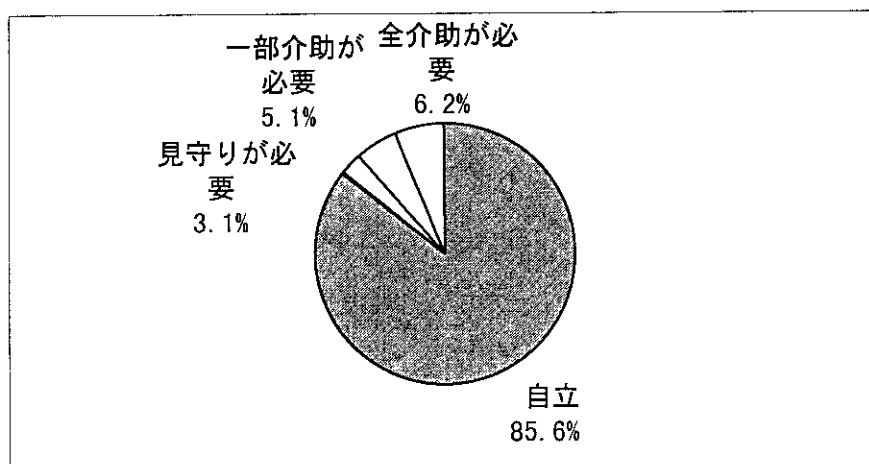


図 15 食事摂取について

16) 嚙下

「できる」は 233 人 (90.6%)、「見守り」は 13 人 (5.1%)、「できない」は 11 人 (4.3%)
であった。

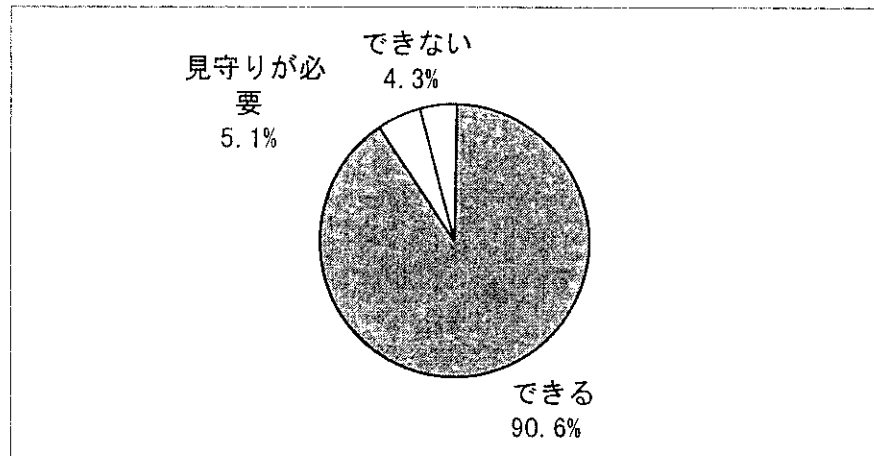


図 16 嚙下について

17) 自助具の使用

「ときどき使用」は 2 人 (0.8%)、「常時使用」は 3 人 (1.2%) でほとんど使用していない。

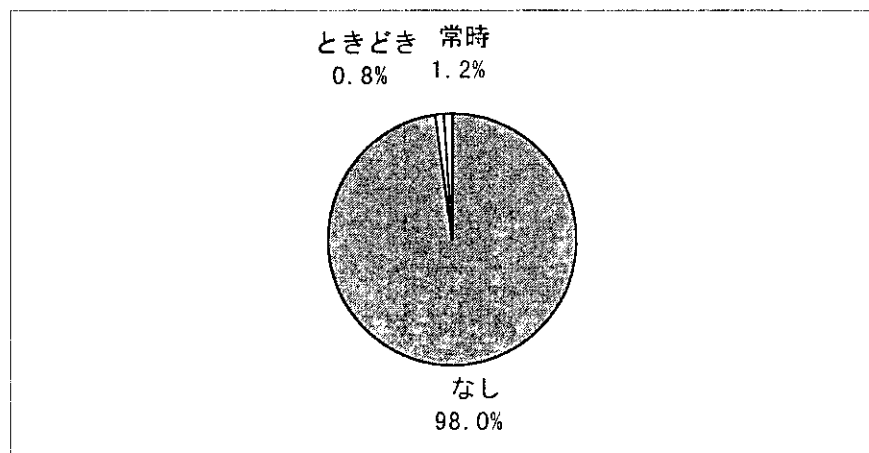


図 17 自助具の使用について

18) 食事に関する状況について

食事の変調は「あり」は46人(17.8%) 摂取困難「あり」26人(10.1%)であった。

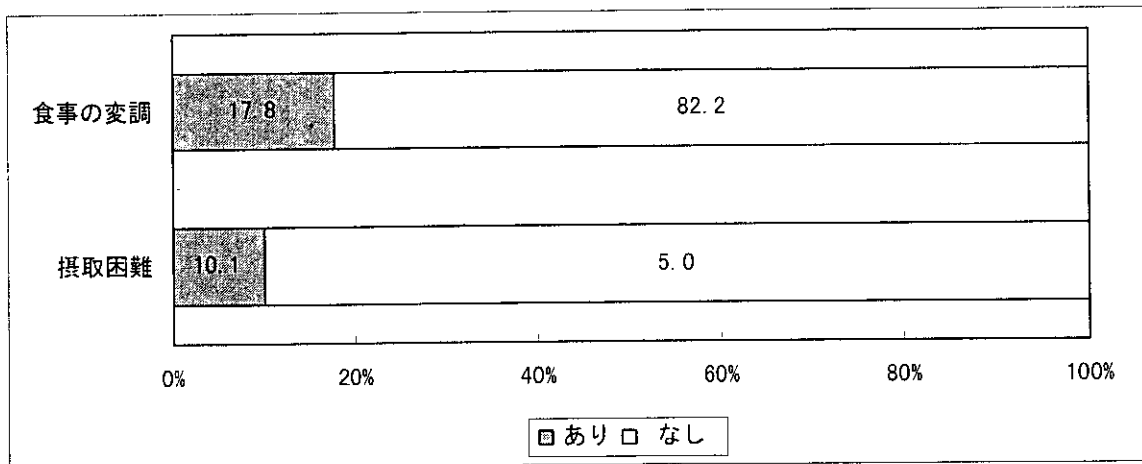


図18 食事に関する状況について

19) 排泄に関して

尿意・便意の有無

尿意「あり」は224人(86.8%)、「ときどき」は13人(5.0%)、「なし」は21人(8.1%)であった。

便意「あり」は231人(89.5%)、「ときどき」は8人(3.1%)、「なし」は19人(7.4%)であった。

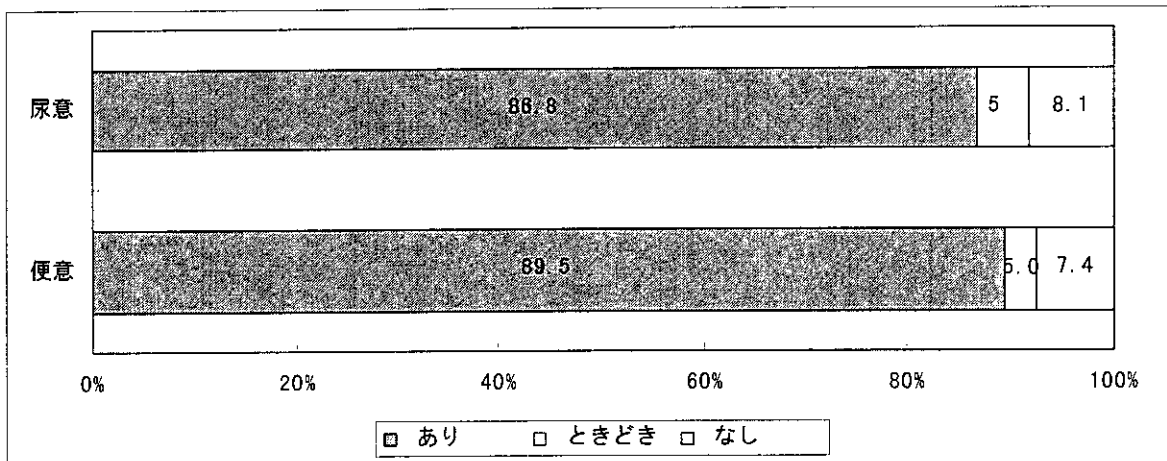


図19 尿意・便意の有無

20) 尿路感染の危険

危険性があるは41人(15.9%)であった。

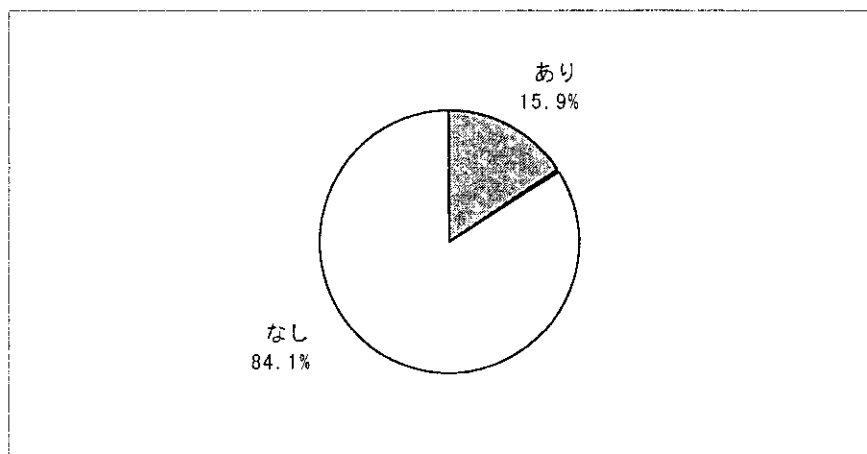


図 20 尿路感染の危険

21) おむつの使用

「あり」は27人(10.5%)、「ときどき」は2人(0.8%)、夜間のみ使用は1人(0.4%)であった。

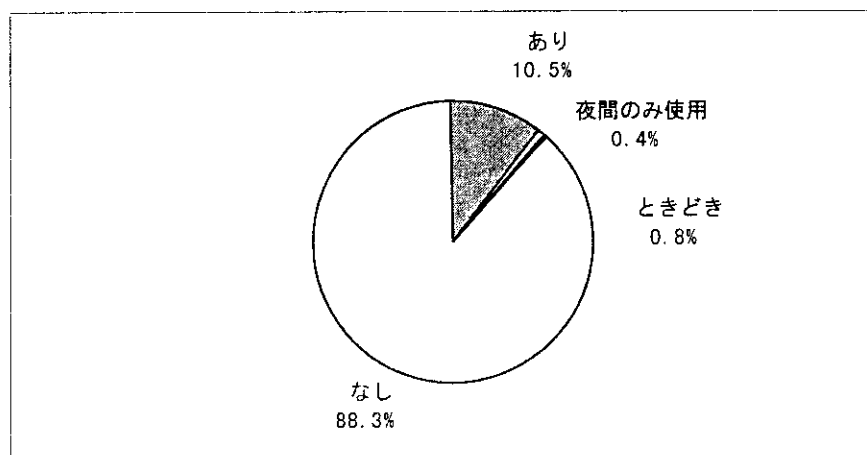


図 21 おむつの使用

2 2) 排尿後の後始末

「自立」は 205 人 (79.5%)、「間接的援助のみ必要」は 18 人 (7.0%)、「直接的援助も必要」は 9 人 (3.5%)、「全介助が必要」は 26 人 (10.1%) であった。

2 3) 排便後の後始末

「自立」は 208 人 (80.6%)、「間接的援助のみ必要」は 16 人 (6.2%)、「直接的援助も必要」は 2 人 (0.8%)、「全介助が必要」は 28 人 (10.9%) であった。

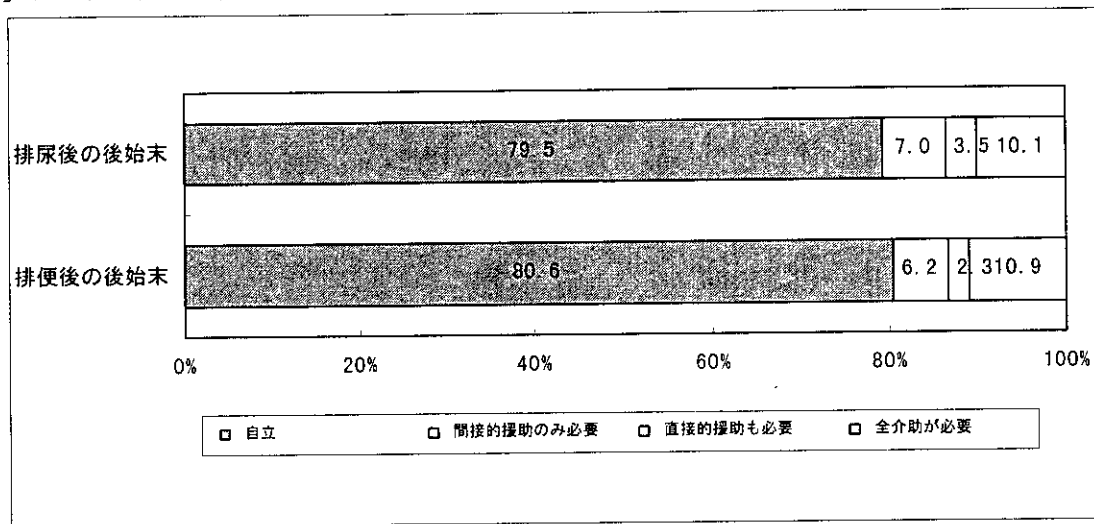


図 22.23 排尿後・排便後の後始末

2 4) ポータブルトイレの使用

「自立」は 18 人 (7.0%)、「間接的援助のみ必要」は 6 人 (2.3%)、「直接的援助も必要」は 5 人 (1.9%)、「全介助が必要」は 5 人 (1.9%)、「使用していない」は 224 人 (86.9%) であった。ほとんどの患者は使用していなかった。

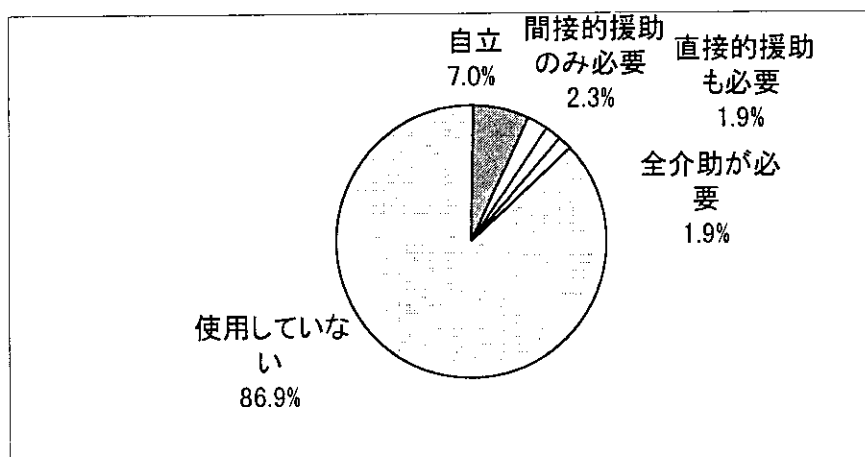


図 24 ポータブルトイレの使用

2.5) 排尿等の状況について

排尿等との状況に何らかの問題があった人数は、次のとおりである。「尿意の変調」が12人(4.7%)、「排尿困難」が18人(7.0%)、「尿性状の異常」が14人(5.4%)であった。258人の複数回答中、該当なし221人、1項目該当31人、2項目該当5人、3項目該当1人であった。

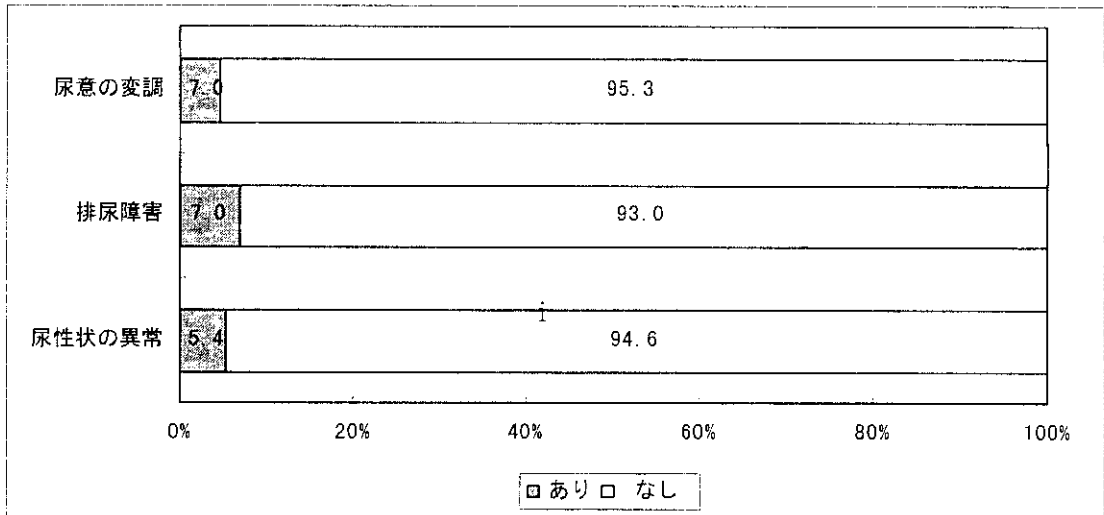


図 25 排尿等の状況について

2.6) 排便等の状況について

排便等の状況について問題としては、普通便 206人(79.8%)、便秘等 29人(11.2%)、下痢便 20人(7.8%)、血便は 8人(3.1%)と続いていた。258人の複数回答中、該当なし50人、1項目該当253人、2項目該当5人であった。

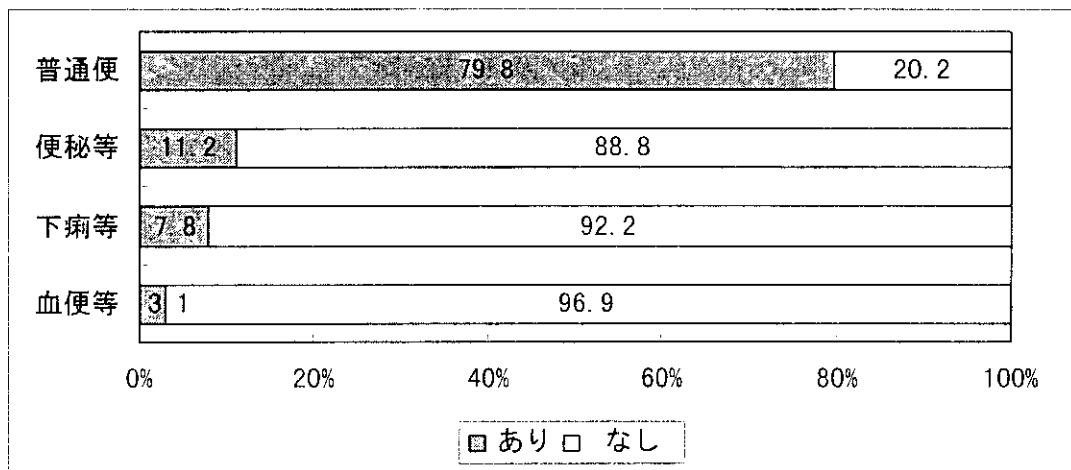


図 26 排便等の状況について

27) 睡眠の状況について

「熟眠感がない」という人は、164人(63.8%)で半数以上であった。「中途覚醒」は98人(38.0%)で、「入眠困難」は74人(28.8%)であった。睡眠に何らかの問題を抱えている患者の割合は、高い。

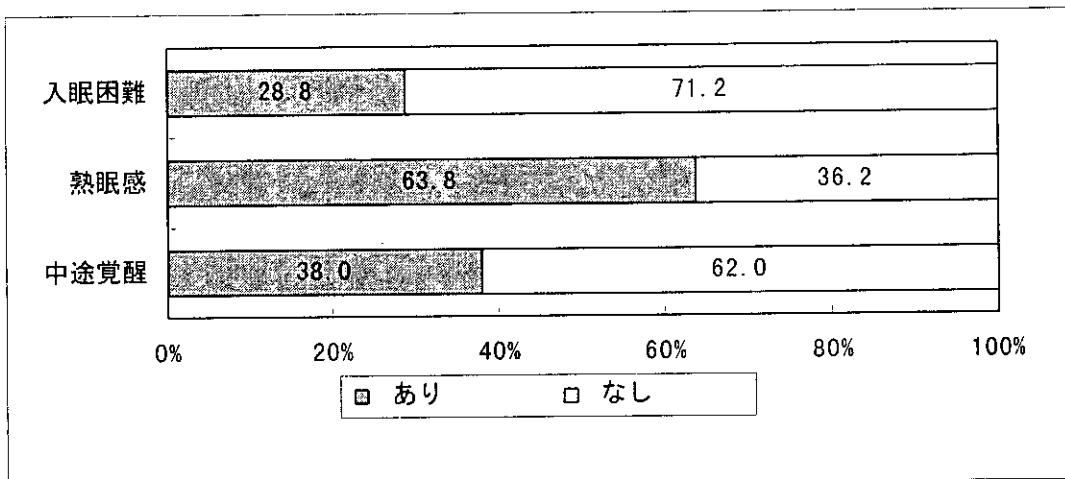


図 27 睡眠の状況について

28) 皮膚の状況について

皮膚の問題としては、「皮膚の異常あり」は34人(19.0%)、「皮膚の損傷あり」は49人(13.2%)、であった。258人の複数回答中、該当なし181人、1項目該当72人、2項目該当6人であった。

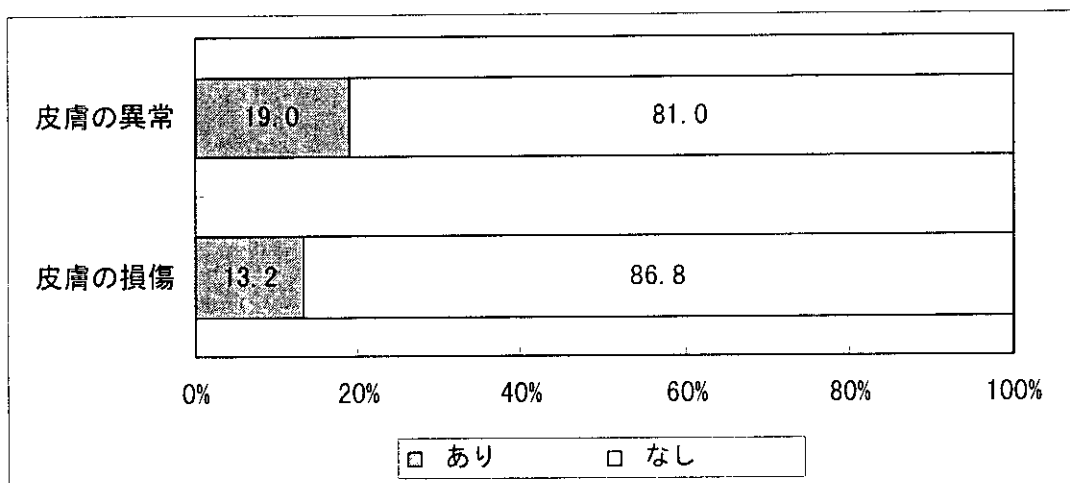


図 28 皮膚の状況について

29) 麻痺の部位について

麻痺の部位は、「左上肢」は4人(1.6%)、「右上肢」では10人(3.9%)、「左下肢」では7人(2.7%)、「右下肢」で11人(4.3%)、「その他」は2人(0.8%)であった。

なお、258人の複数回答中、該当なし240人、1項目該当4人、2項目該当13人、4項目該当1人であった。

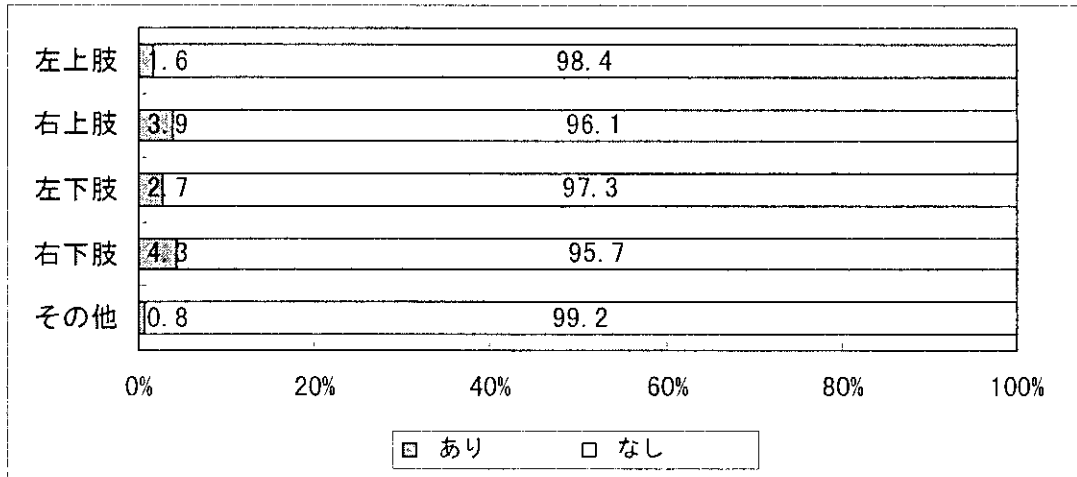


図 29 麻痺の有無について

30) 寝返り

「つかまらないでできる」は207人(80.2%)、「つかまればできる」は27人(10.5%)、「できない」は24人(9.3%)であった。

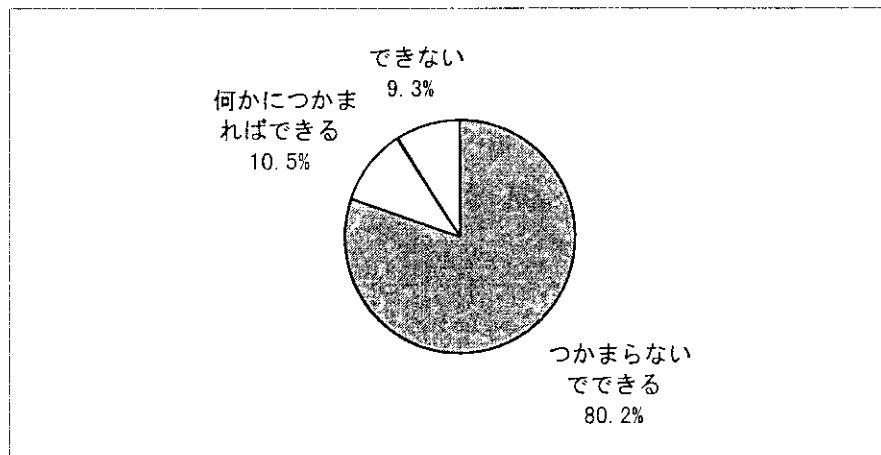


図 30 寝返り

3 1) 起き上がり

「つかまらないでできる」は179人(69.4%)、「つかまればできる」は49人(19.0%)、「できない」は30人(11.6%)であった。寝返りよりも自立度が高い患者の割合が低下している。

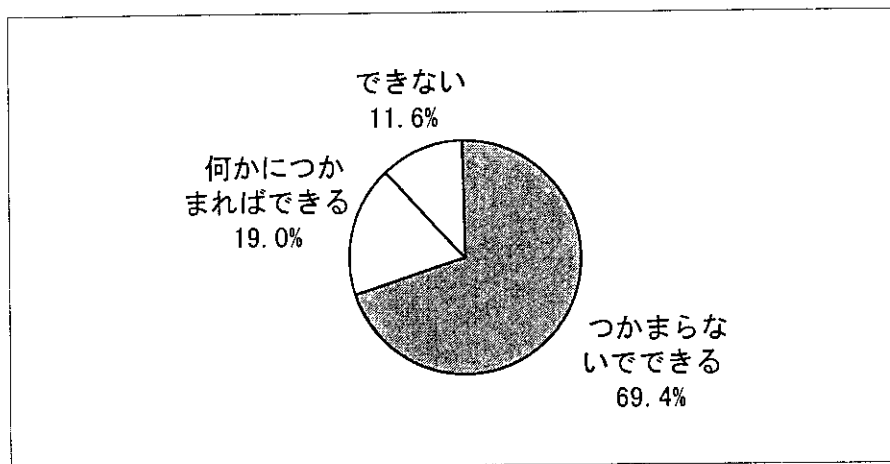


図 31 起き上がり

3 2) 両足がつく座位保持

「できる」は216人(83.7%)、「手支持でできる」は7人(2.7%)、「背もたれ必要」は14人(5.4%)、「できない」は21人(8.1%)であった。

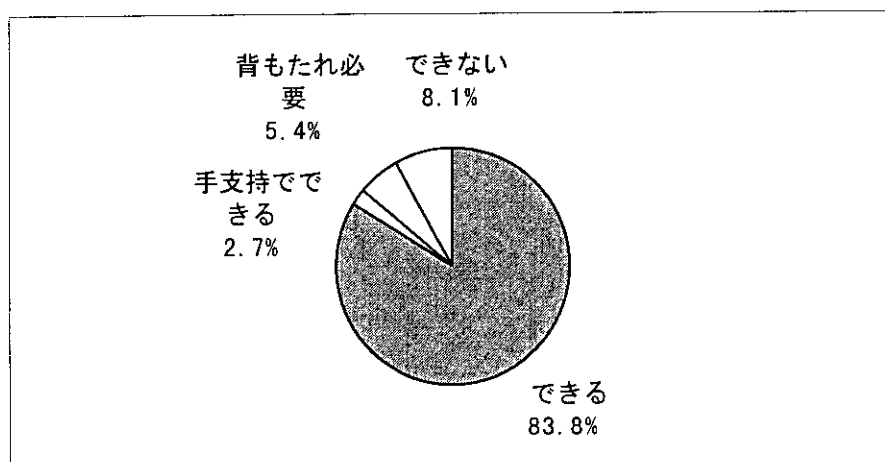


図 32 両足がつく座位保持

3.3) 両足がつかない座位保持

「できる」は 176 人 (68.2%)、「手支持でできる」は 7 人 (9.7%)、「背もたれ必要」は 25 人 (10.1%)、「できない」は 31 人 (12.0%) であった。

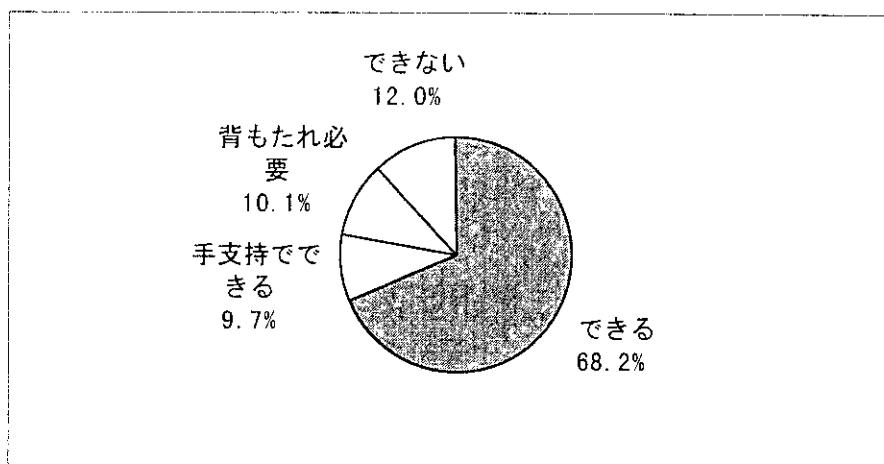


図 33 座位保持 (両足つかない)

3.4) 立ち上がり

「できる」は 175 人 (67.8%)、「何かにつかまればできる」は 51 人 (19.8%)、「できない」は 32 人 (12.4%) であった。

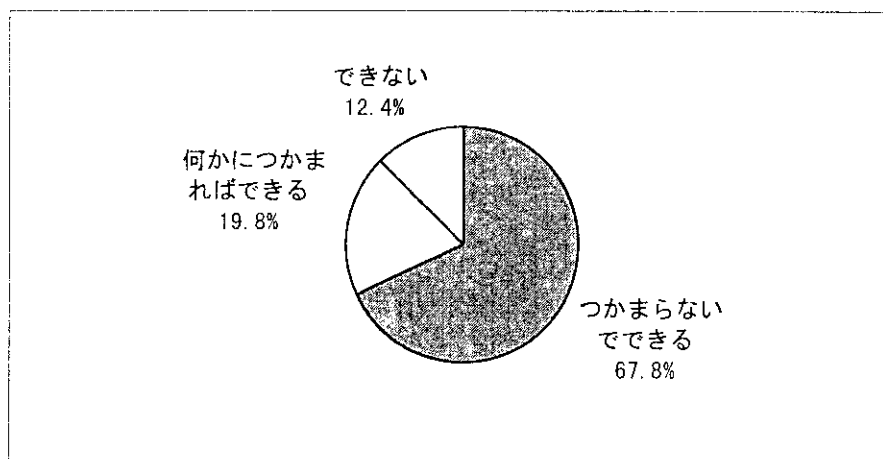


図 34 立ち上がり

3 5) 両足での立位保持

「支えなしでできる」は 199 人 (77.2%)、「支えがあればできる」は 22 人 (8.5%)、「できない」は 37 人 (14.3%) であった。立ち上がりよりも立位保持の自立度のほうが、高い割合を示していた。

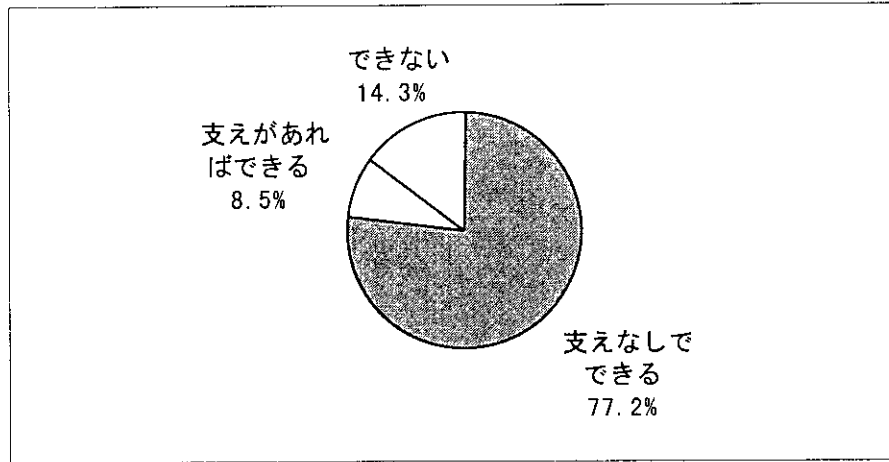


図 35 立位保持

3 6) 片足での立位保持

「支えなしでできる」は 130 人 (50.6%)、「支えがあればできる」は 73 人 (28.4%)、「できない」は 54 人 (21.0%) であった。

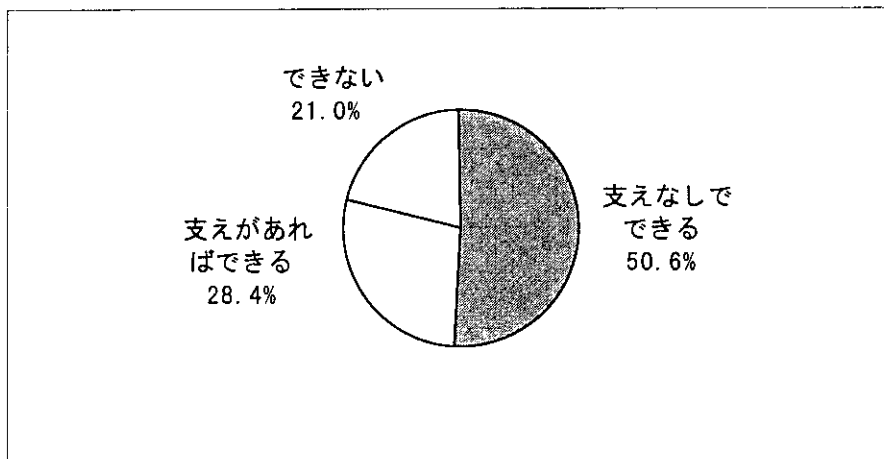


図 36 片足での立位保持

37) 歩行

「つかまらないでできる」は191人(74.3%)、「何かにつかまればできる」は19人(7.4%)、「できない」は47人(18.3%)であった。自立歩行は、片足の立位保持よりも割合が高く、約7割の患者が自立歩行である。

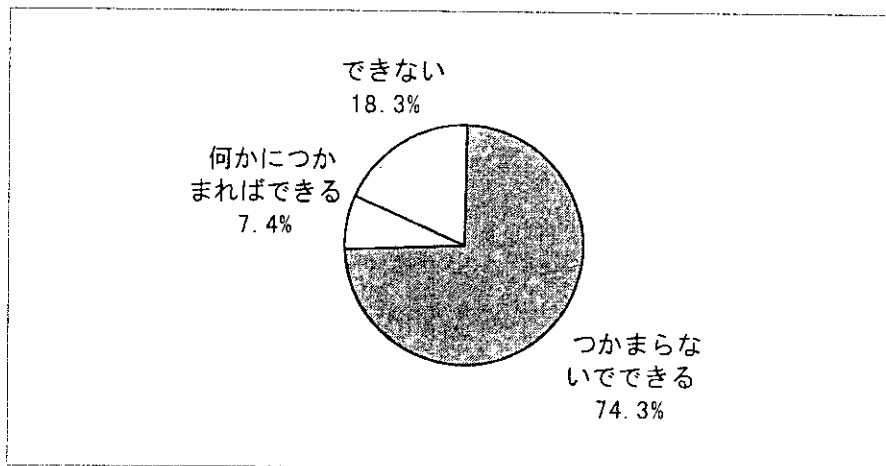


図 37 歩行

38) 移動方法

移動方法は、歩行が187人(72.5%)、杖歩行が5人(1.9%)、つたい歩きが2人(0.8%)、歩行器が3人(1.2%)、車いす自力歩行が7人(2.7%)、車いす介助歩行が43人(16.7%)、その他が17人(6.6%)であった。

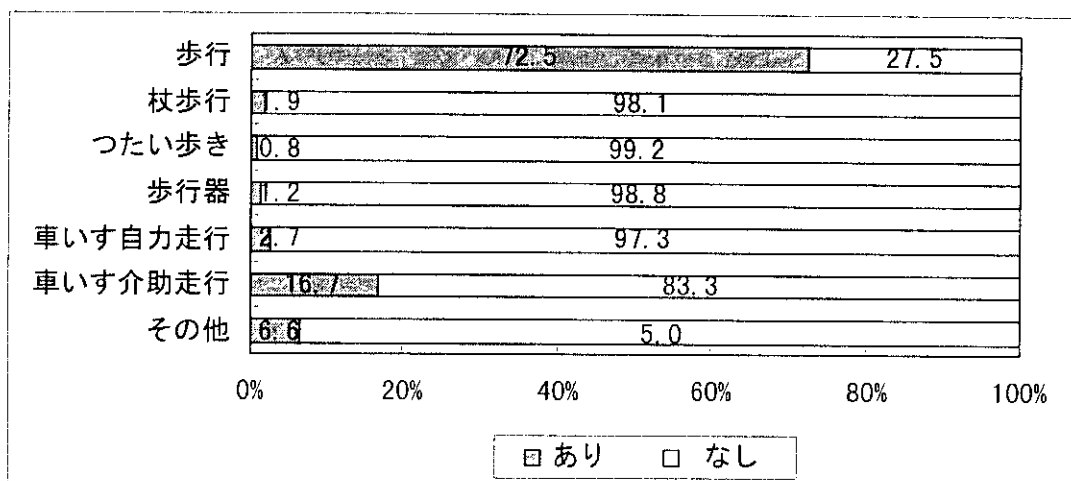


図 38 移動方法について

39) 移乗

「自立」は 188 人 (73.7%)、「見守りが必要」は 16 人 (6.3%)、「一部介助が必要」は 22 人 (8.6%)、「全介助が必要」は 29 人 (11.4%) であった。

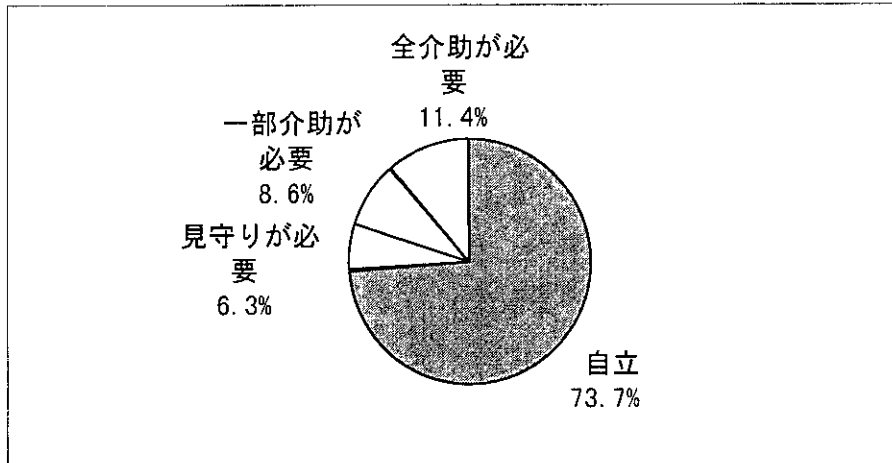


図 39 移乗について

40) 口腔清潔(はみがき等)

「自立」は 206 人 (79.8%)、「一部介助」は 33 人 (12.8%)、「全介助」は 19 人 (7.4%) であった。

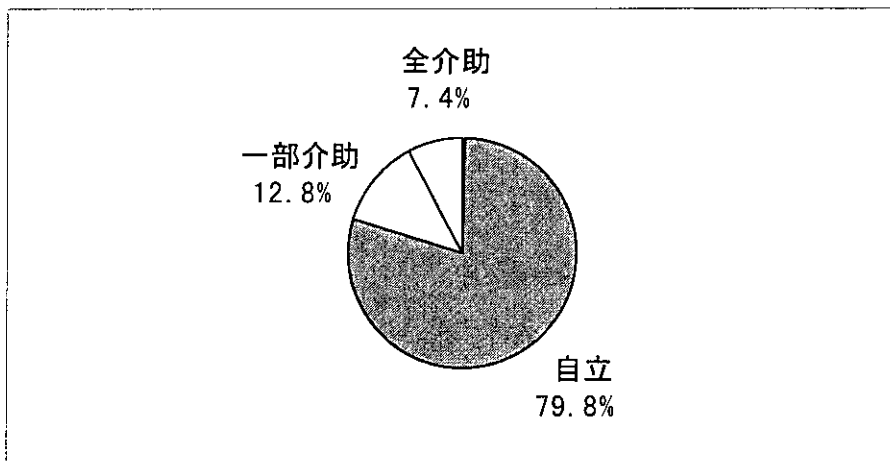


図 40 口腔清潔(はみがき等)

4 1) 入れ歯の手入れ

「自立」は111人(43.0%)、「一部介助」は22人(8.5%)、「全介助」は10人(3.9%)、「入れ歯なし」は115人(44.6%)であった。

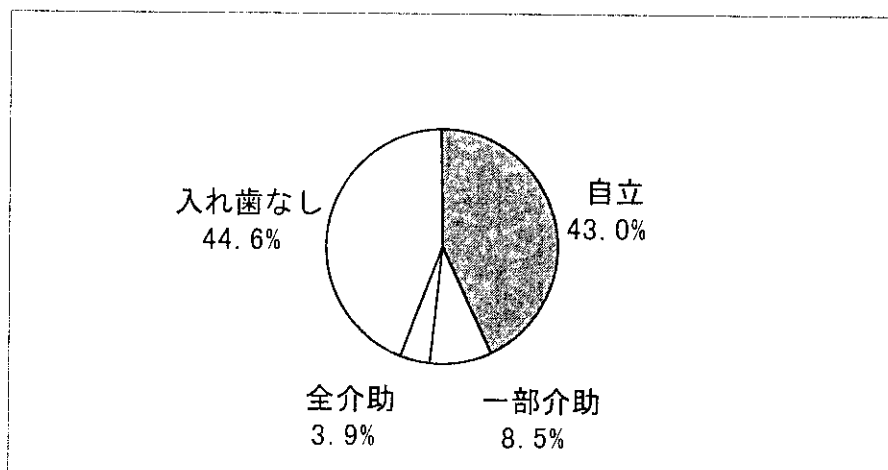


図 41 入れ歯の手入れ

4 2) 洗顔

「自立」は200人(77.5%)、「一部介助」は38人(14.7%)、「全介助」は20人(7.8%)であった。

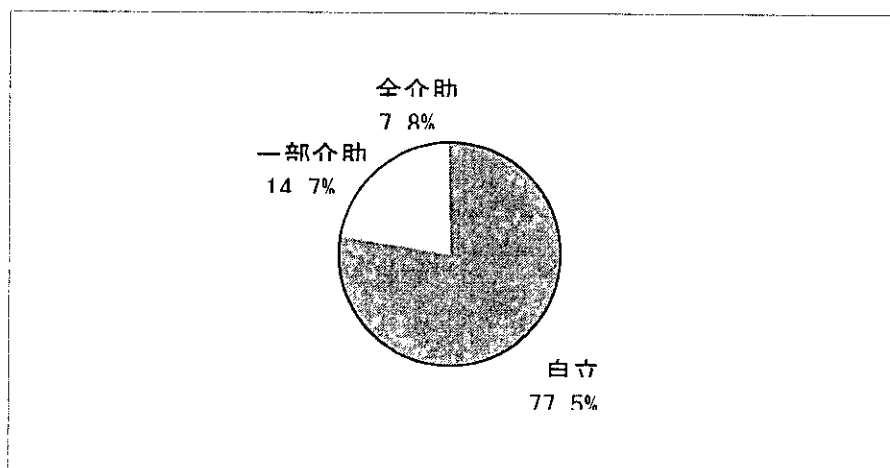


図 42 洗顔

4 3) 整髪

「自立」は 205 人 (79.4%)、「一部介助」は 27 人 (10.5%)、「全介助」は 26 人 (10.1%) であった。

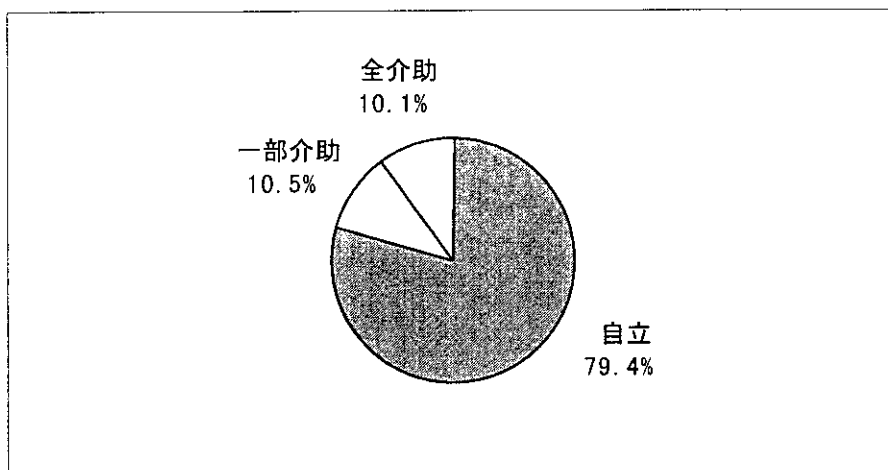


図 43 整髪

4 4) 洗髪

「自立」は 168 人 (65.1%)、「一部介助」は 41 人 (15.9%)、「全介助」は 49 人 (19.0%) であった。

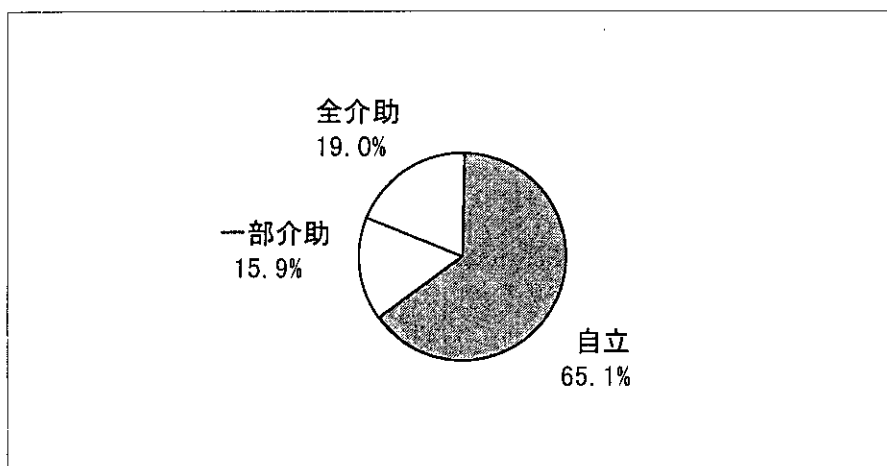


図 44 洗髪

4 5) つめ切り

「自立」は 204 人 (79.1%)、「一部介助」は 22 人 (8.5%)、「全介助」は 32 人 (12.4%) であった。

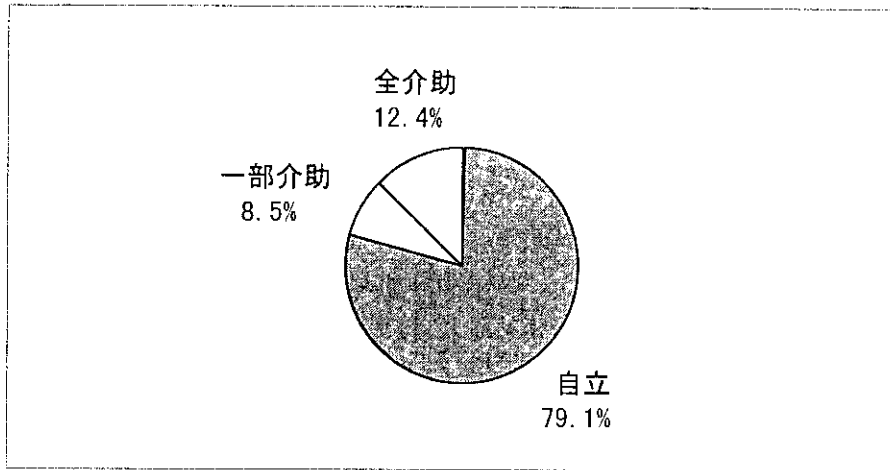


図 45 つめ切り

4 6) 片手を胸元まであげる

「できる」は 244 人 (94.6%)、「介助があればできる」は 5 人 (1.9%)「できない」は 9 人 (3.5%) でほとんどの患者が可能である。

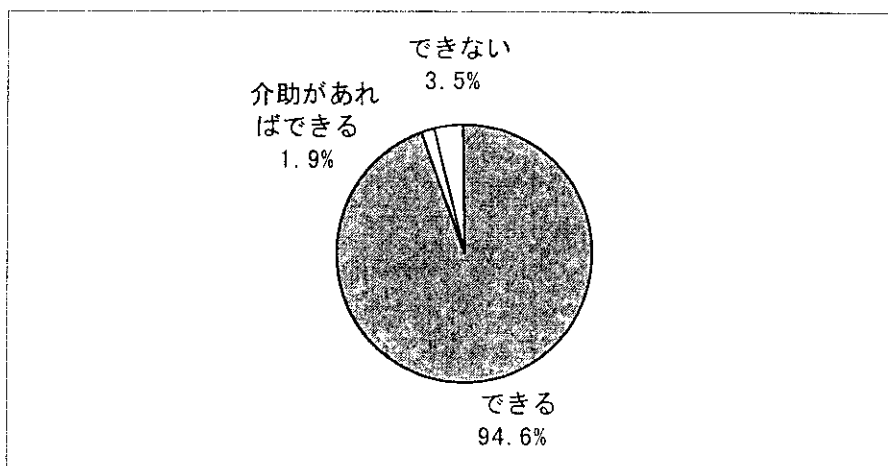


図 46 どちらかの手を胸元まで

4 7) 衣服の着脱

ボタンのかけはずしについて、「自立」は216人(83.7%)、「見守り」は6人(2.3%)、「一部介助」は14人(5.4%)、「全介助」は22人(8.5%)であった。

上衣の着脱について、「自立」は213人(82.6%)、「見守り」は5人(1.9%)、「一部介助」は15人(5.8%)、「全介助」は25人(9.7%)であった。

ズボン、パンツの上げ下げについて、「自立」は201人(77.9%)、「見守り」は4人(1.6%)、「一部介助」は21人(8.1%)、「全介助」は32人(12.4%)、

靴下の着脱について、「自立」は216人(77.9%)、「見守り」は5人(1.9%)、「一部介助」は17人(6.6%)、「全介助」は35人(13.6%)であった。

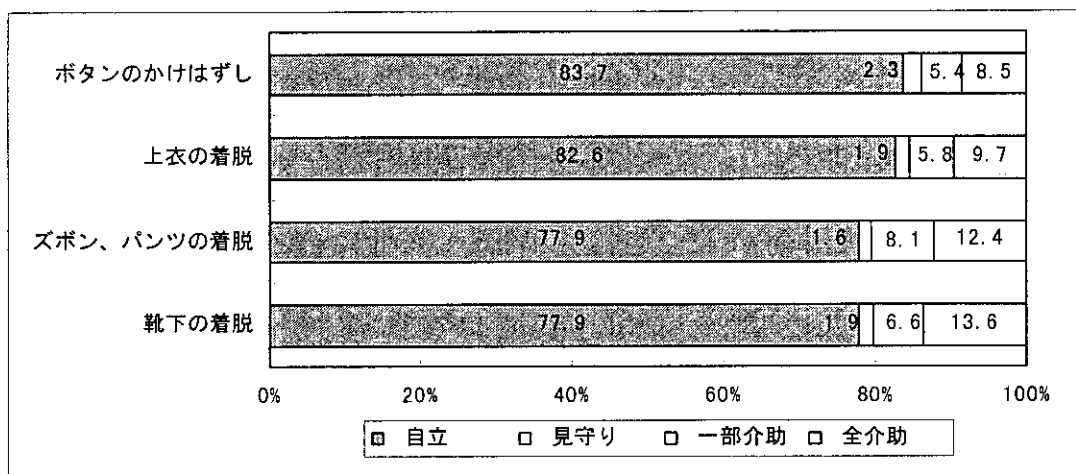


図 47 衣服の着脱

4 8) 入浴の方法について

「浴槽の使用」は120人(46.5%)、「介助浴」は24人(9.3%)、「シャワーのみ」は35人(13.6%)、「リフト浴」は12人(4.7%)、「ポータブル浴槽」は1人(0.4%)、「入浴しない」は66人(25.6%)であった。

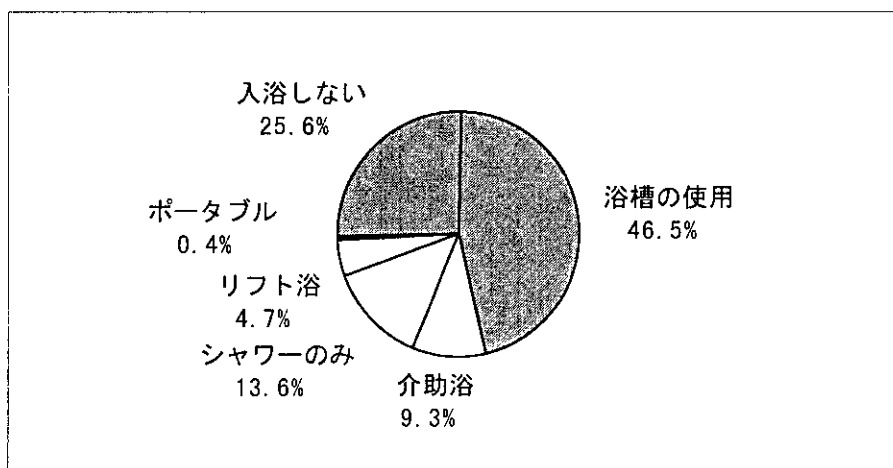


図 48 入浴の方法について

49) 浴槽の出入り

「自立」は130人(50.4%)、「一部介助」は23人(8.9%)、「全介助」は14人(5.4%)、「浴槽使用なし」は23人(8.9%)、「入浴しない」は68人(26.4%)で入浴しない患者の割合が高い。

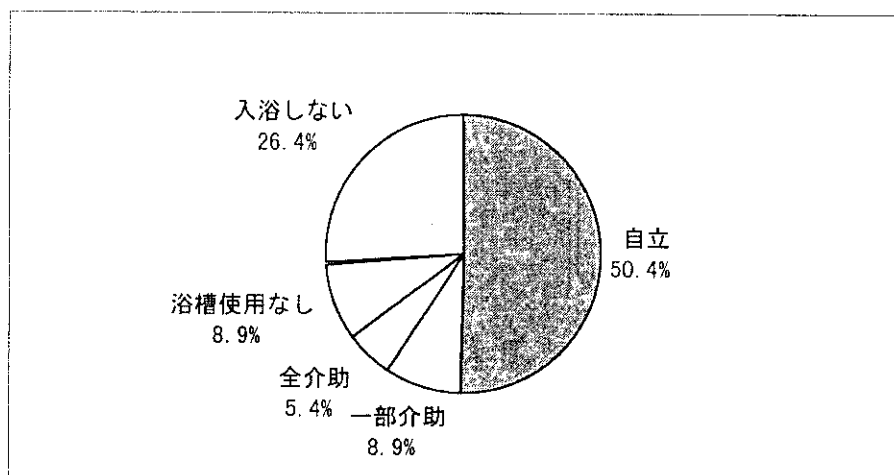


図 49 浴槽の出入りをする

50) 洗身

「自立」は149人(58.4%)、「一部介助」は30人(11.8%)、「全介助」は15人(5.8%)、「行っていない」は61人(23.6%)で入浴しない患者の割合が半数を超えていた。

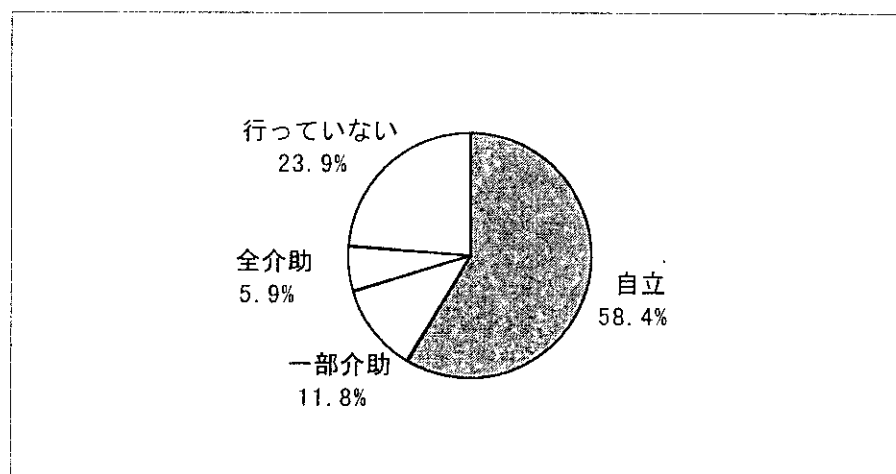


図 50 洗身

5 1) 聴力

「普通」は 221 人 (85.7%)、「聞き間違えあり」は 28 人 (10.9%)、「大きな声聞こえる」は 1 人 (0.4%)、「ほとんど聞こえない」は 2 人 (0.8%)、「不明」は 6 人 (2.3%) であった。8 割以上の患者は、聴力は普通である。

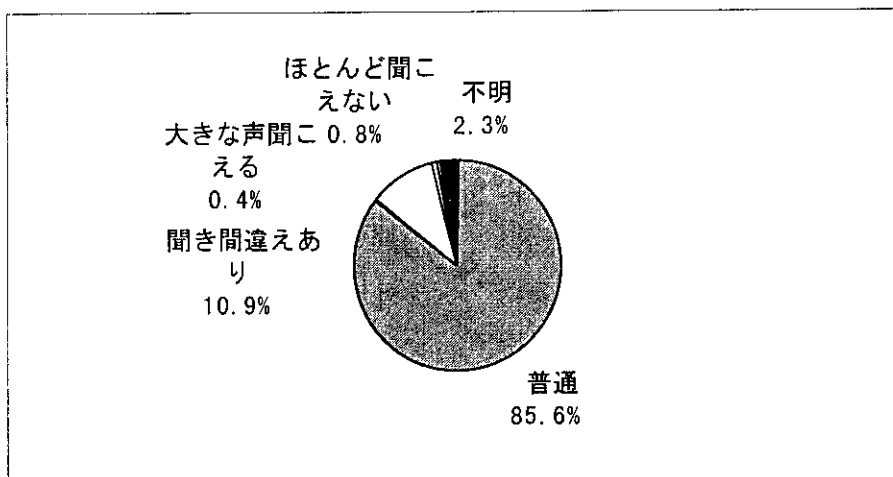


図 51 聴力

5 2) 視力

「普通」は 241 人 (93.4%)、「1m の視力図見える」は 5 人 (1.9%)、「目の前の視力図見える」は 4 人 (1.6%)、「ほとんど見えない」は 2 人 (0.8%)、「不明」は 6 人 (2.3%) であった。視力は 9 割以上の患者が普通である。

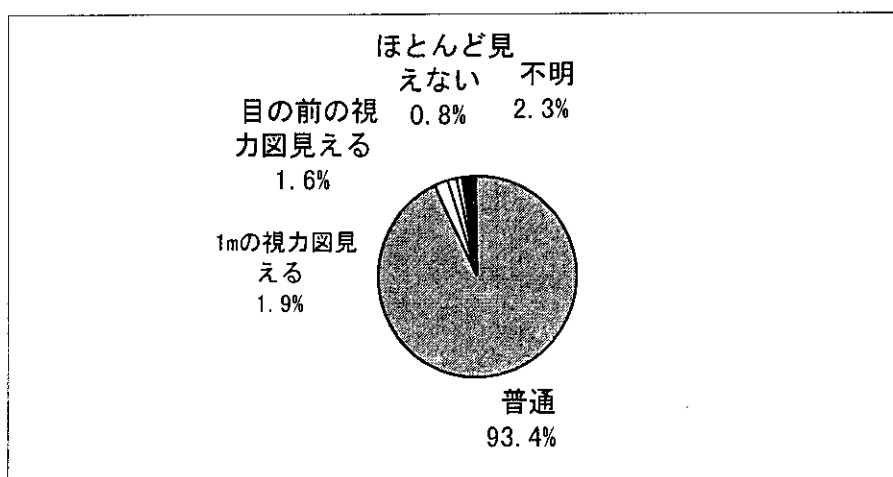


図 52 視力

5 3) 意思の伝達

「伝達可能」は 225 人 (87.2%)、「ときどきできない」は 20 人 (7.8%)、「まれに伝達できる」は 5 人 (1.9%)、「できない」は 8 人 (3.1%) で 8 割以上の患者が会話を普通にできる。

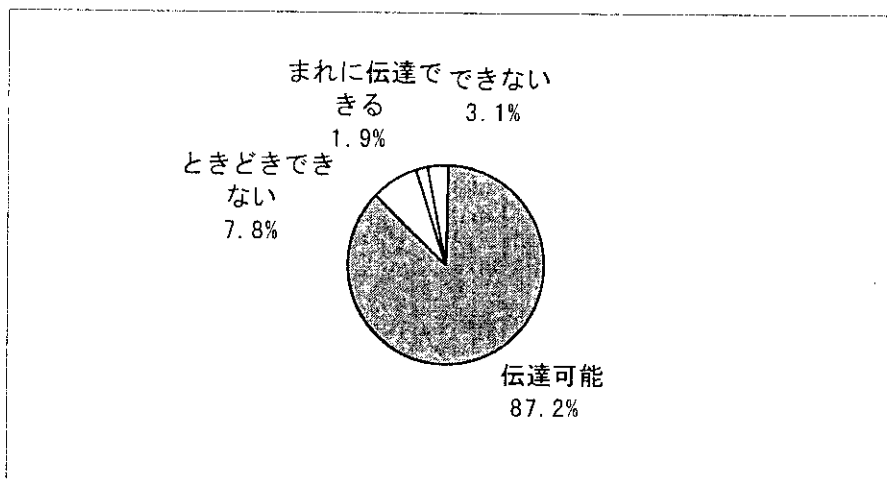


図 53 意思の伝達

5 4) 口頭指示

「指示が通じる」は 227 人 (88.0%)、「ときどき通じる」は 23 人 (8.9%)、「通じない」は 8 人 (3.1%) であった。

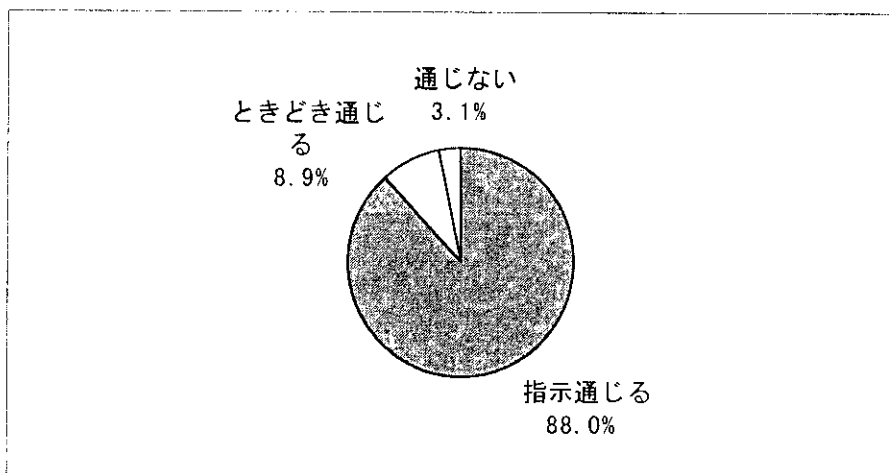


図 54 口頭指示